

つるは、わらは名は、まちをさぎみときこえしは、九でうごの〇藤原の、いみじうおもひきこえ給へりし。

〔口遊序〕竊以左親衛相公殿下爲光原第一小郎君○誠信年初七歳、天性聰敏、每至耳聽目視莫不習性銘心、及今年元年〇天祿秋以門下書生爲師、讀李嶠百廿詠矣。

〔徒然草〕たづのおほいごの〇藤原は、童名たづ君なり、鶴を飼給ひけるゆゑにと申は僻事なり、

〔元服法式〕元服次第

一元服以前は、をさな名とて、何若丸、何千代丸など、名のる也。元服の日、何太郎、何次郎など、名を改る也。これをゑぼし名と云。

〔四季草〕一古は小童にをさな名あり、わらは名とも云ひ、元服以前の名也。何丸、何千代丸など、云ふ名也。是貴賤ともに同じ、元服の日、何太郎、何次郎と名のりて、實名を付くるなり。今世は赤子の時より、何太郎、何次郎、何之丞、何之助など、名づくる也。何太郎、何次郎はえぼし名とて、元服の日より名のる、是古風也。助丞などは官名の字也。

〔貞丈雜記〕一をさな名に、牛若丸、犬房丸など、云丸は、本は麿の字也。麻呂の二字を一つにしたる字也。まろとは男の事なり。依て男子の名にはまろと云也。上古はおさな名に限らず、成長の人にも麿の字付たり。人麿、蟬麿、仲麿、田村麿の類也。太郎、次郎の郎の字も男の事也。麿と同意也。

〔小右記〕寛仁三年二月十六日甲辰、千壽丸、於家侍所令加元服、名爲時

〔玉勝間〕童名に某丸といふ事

同記〇小に、寛仁三年二月十六日、千壽丸於家侍所令加元服名爲時とあり、童名に某丸といふ事、そのかみも有し也。

〔源平盛衰記〕四十四大臣殿舍人附女院移吉田并賴朝叙二位事